

Q 4 各教科等と関連をもたせた指導とはどのようなものでしょうか。



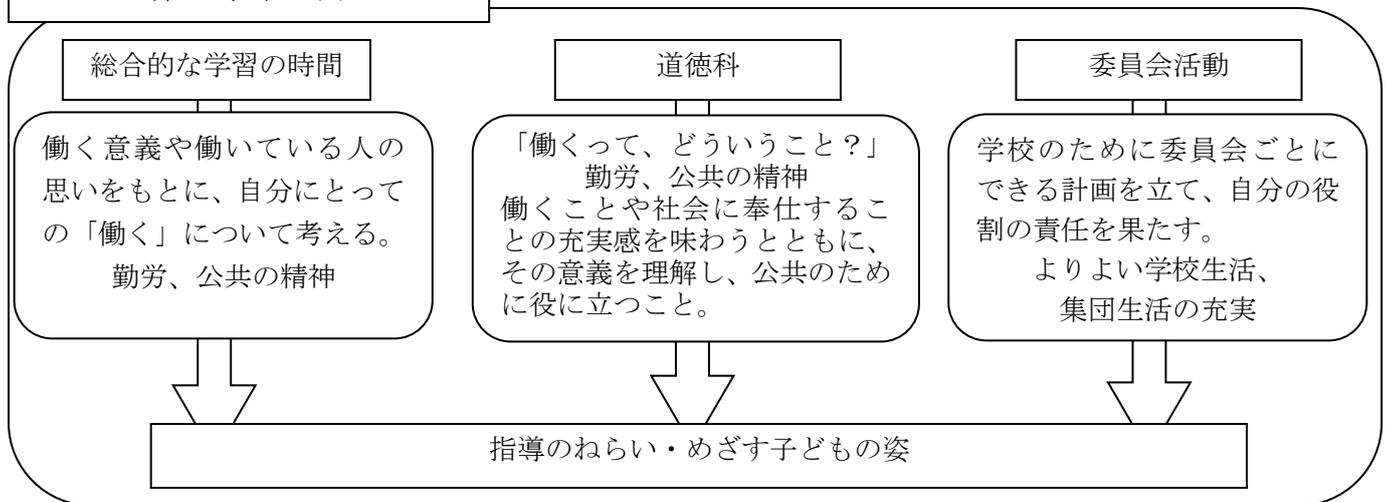
各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができます。その際、各教育活動と道徳科それぞれの特質が生かされた関連となるように配慮することが大切である。

例えば

- ・ 体育科のチームワークや社会科の郷土愛、国語科の友情が描かれた物語文などがあげられます。



第 6 学年の例



学校の諸活動の中で多様な道徳的価値について感じたり考えたりするけど、各教科の特性もあり、その全てについて考える機会があるとは限りません。

道徳科は、学校の諸活動で得られにくい道徳的価値を補ったり、その意味や自己との関わりについて一層考えを深めたりする役割を担っています。



各教科等の関連を図ることで指導の効果が高められる場合には、指導の内容及び時期を考慮して年間指導計画に位置付けます。

集団宿泊活動やボランティア、自然体験活動などの道徳性を養うための体験活動と道徳科の指導を関連させ、道徳的価値の理解を基に自己を見つめることもできます。

**年間指導計画作成上の創意工夫と留意点**

- ・ 主題設定と配列を工夫する。
- ・ 計画的、発展的な指導ができるように工夫する。
- ・ 重点的指導ができるように工夫する。
- ・ 各教科等、体験活動等との関連的指導を工夫する。
- ・ 複数時間の関連を図った指導を取り入れる。
- ・ 特に必要な場合には他学年段階の内容を加える。
- ・ 計画の弾力的な取扱いについて考慮する。
- ・ 年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする。

◎道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導



道徳教育としての道徳科

補充

各教科等で行う道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補う。

深化

児童や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深める。

統合

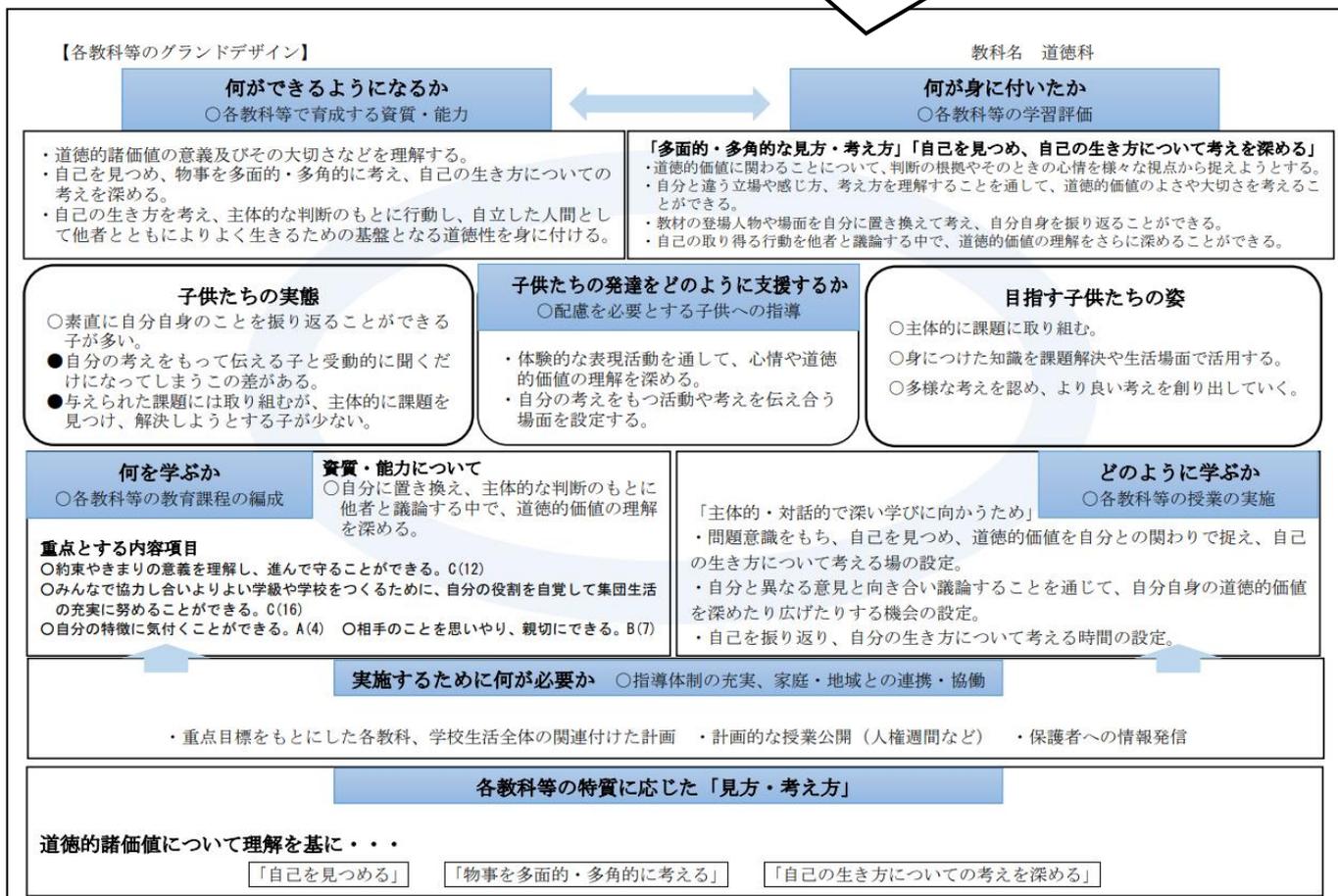
内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりする。

ここでは、4つの指導計画の例を紹介します。

1. グランドデザイン
2. 道徳科を要としたカリキュラム
3. 道徳教育の重点内容項目で関連させた計画
4. 現代的な諸課題に向けた指導計画

学校の教育目標、各教科など、共通したグランドデザイン

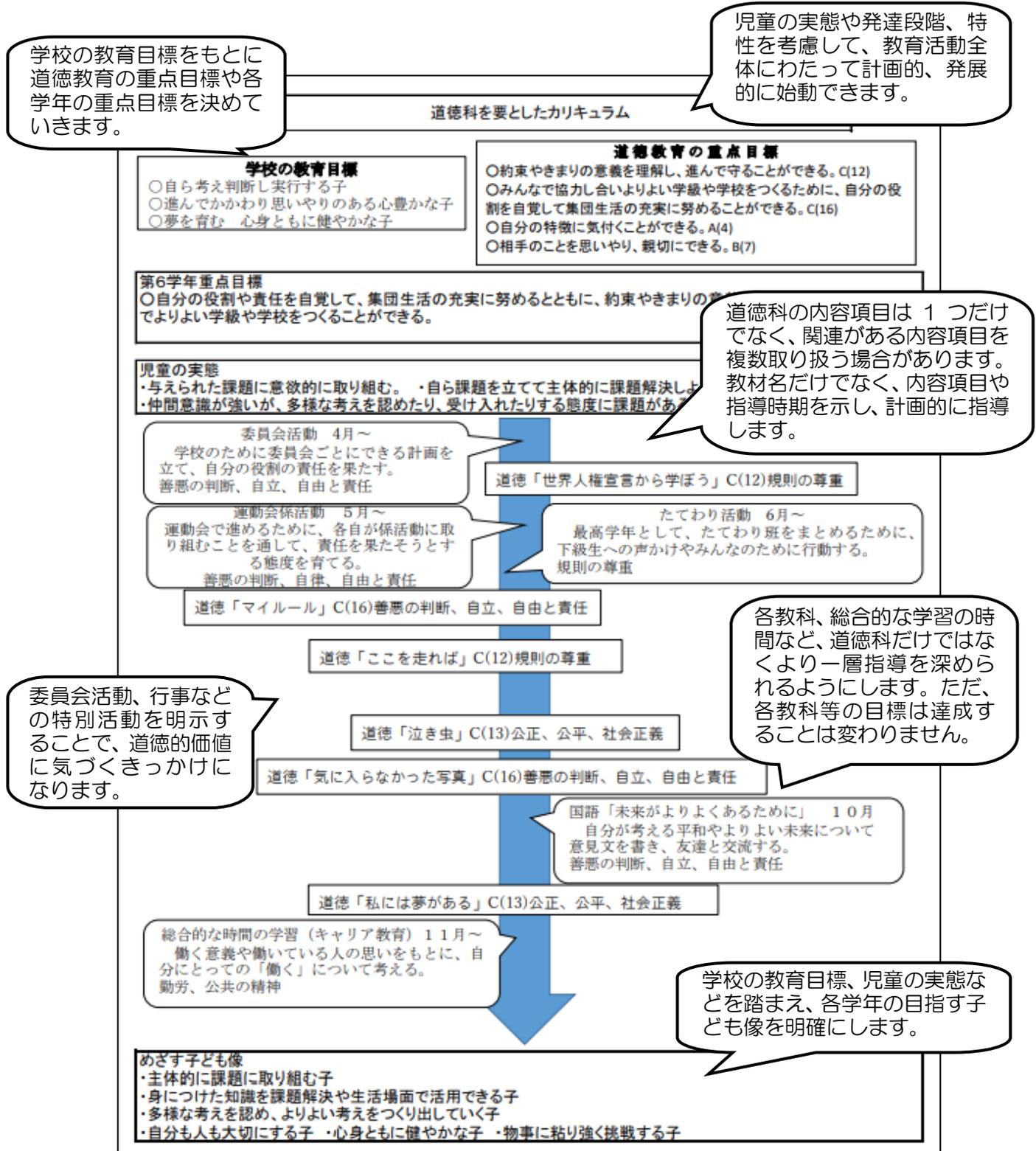
1. グランドデザイン 例



ポイント

- ・全教科で**共通した形（テンプレート）**で作成できます。
- ・**グランドデザインをもとに**、各学年で重点にした内容項目、道徳科としての指導を明確にできます。

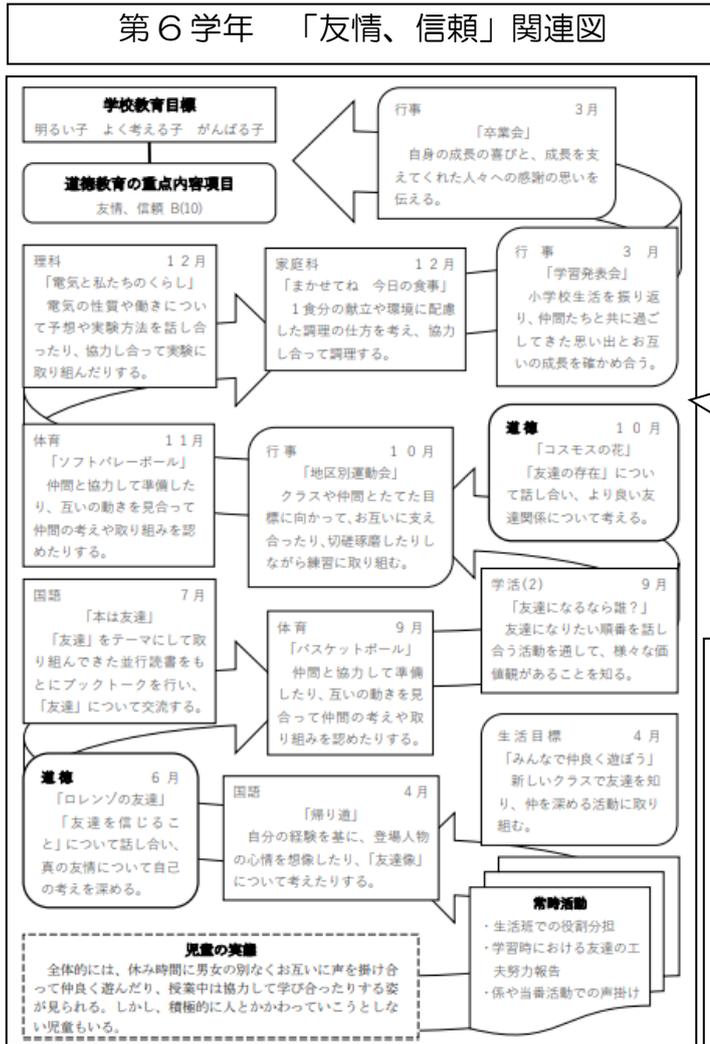
## 2. 道徳科を要としたカリキュラム 例



### ポイント

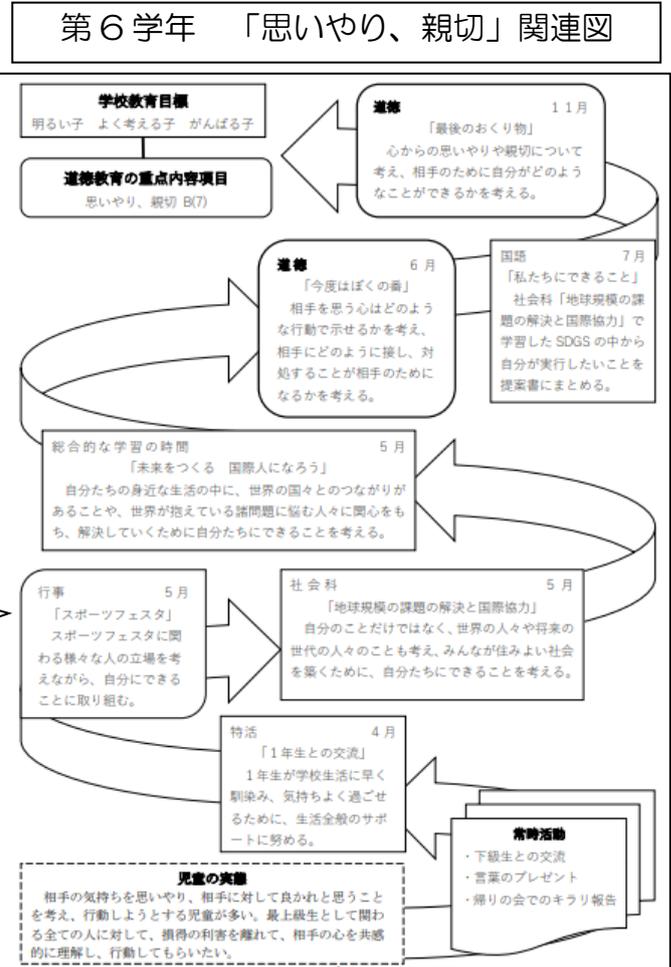
- ・道徳科の授業の中で、教育活動をふり返って、**自分事として考える**きっかけになります。
- ・**複数の内容項目と関連付けた指導**に取り組み、多面的・多角的な考え方につながられます。

### 3. 道徳教育の重点内容項目で関連させた計画 例



道徳教育の重点内容項目に特化した関連図です。  
各教科、教育活動などを内容項目にどのように関連するのか、どのような指導を行うのか整理します。

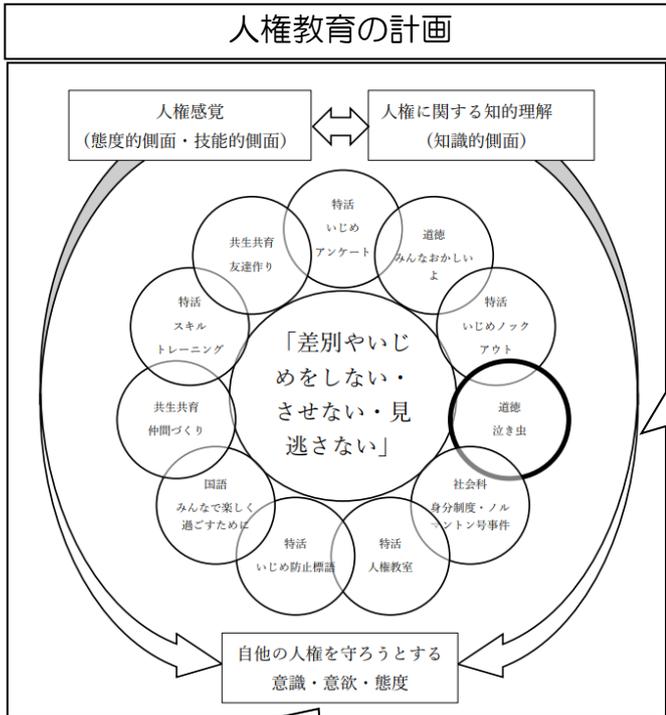
実施の時期を明記することで、計画的な指導が可能になります。



#### ポイント

- ・学校の教育目標や児童の実態から考えた重点目標の関連図のため、**指導の計画がより焦点化**されます。
- ・低学年 19 項目、中学年 20 項目、高学年 22 項目の内容項目があります。**重点にした内容項目から作成する**と取り組みやすいです。
- ・道徳科だけでなく、**道徳教育として**他教科等でどのような指導が必要なのか明確になります。

#### 4. 現代的な諸課題に向けた指導計画 例



道徳科、他教科の指導で共通する目標に向けた指導を計画します。

道徳科だけでなく、総合的な学習の時間、特別活動など、現代的な諸課題の解決に向けて計画します。

- 現代的な諸課題の例
- ・食育
  - ・健康教育
  - ・消費者教育
  - ・防災教育
  - ・福祉に関する教育
  - ・法教育
  - ・社会参画に関する教育
  - ・伝統文化教育
  - ・国際理解教育
  - ・キャリア教育
  - など

いじめや人権など、様々な問題があり、複数の道徳的価値に関わる葛藤があり、整理して関連図を作成します。



#### ポイント

- ・現代的な諸課題には、**多様な見方や考え方があり、一面的な理解では解決できないこと**に気付かせ、多様な価値観の人々と協働して問題を解決していこうとするきっかけになります。
- ・答えが定まっていない問題を**多面的・多角的視点から**考えることができます。
- ・児童も教員も、自分と**異なる考えや立場について**も理解を深めることができます。